

令和2年度 研究紀要



東京都奉仕・ボランティア教育研究会

目 次

・研究紀要発行にあたって	・・・ 2
・令和2年度の研究活動	・・・ 3
・都立高等学校におけるボランティア部等の活動に関する調査報告 【都立高等学校（43校）対象アンケート結果】	・・・ 4
【生徒向けアンケート結果】	・・・ 7
【新たな日常における今後の活動に向けて】	・・・ 9
《資料1》 都立高等学校等におけるボランティア部等の活動に関するアンケート用紙	・・・ 10
《資料2》 都立高等学校等におけるボランティア部等の活動に関する生徒向けアンケート用紙	・・・ 13
・令和2年度 東京都奉仕・ボランティア教育研究会会員名簿	・・・ 14

表紙イラスト作成：東京都立永福学園3年 鳩貝 美咲

【イラストの意味】

- ・ハナショウブ：花言葉 優しい心
- ・クローバー：花言葉 幸運、安心
- ・椿：花言葉 控えめな優しさ
- ・ブレスレット：様々なブレスレット運動、「応援しています。」
- ・パズル：チームワーク・連帯、「一つでは完成しない。」
- ・鳩：幸せの象徴
- ・握り合う手：支え合い
- ・羽根：募金活動

研究紀要発行にあたって

東京都奉仕・ボランティア教育研究会会長

吉田 寿美

(東京都立豊多摩高等学校長)

東京都奉仕・ボランティア教育研究会は、平成 23 年度に発足しました。平成 19 年度から全都立高等学校で必修化した教科・科目「奉仕」における授業実践と、その設置の目的である「高校生としての社会の一員の自覚」と「規範意識と社会貢献意識の醸成」等を育ませるために発足した研究団体です。現在は、「奉仕・ボランティア教育」に関心をもつ教育者やボランティア関係団体の方々も一緒になり、活動しています。

令和 4 年度より全面実施の高等学校学習指導要領総則では、「奉仕・ボランティア教育」に関する事柄として、「学校においては、地域や学校の実態等に応じて、就業やボランティアに関わる体験的な学習の指導を適切に行うようにし、勤労の尊さや創造することの喜びを体得させ、望ましい勤労観、職業観の育成や社会奉仕の涵養に資するものとする。」(第 1 章総則第 1 款 高等学校教育の基本と教育課程の役割)の記述があります。この記述に基づいて考えますと、各学校で奉仕・ボランティア体験活動を進める上では、奉仕・ボランティア体験活動の完璧な形を追い求める発想だけではなく、「地域や学校の実態等に応じて」、「学習」、「適切に行う」という発想も取り入れながら実施することが大切であるということになります。地域の防災訓練に防災支援隊の生徒が参加する、吹奏楽部が地域の小学校で演奏する、生徒が地域の中学生に剣道を教えるなど、奉仕・ボランティア体験の学習の形は、様々であって良いということです。日常の学校生活では得られない世界や人に触れる学習です。多くの気付きや感動が生まれます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、教育活動や教員研修に大きな影響が出ています。従来対面で行われることが多かった奉仕・ボランティア体験活動も行えず、新たな奉仕・ボランティア体験活動の在り方を模索している学校も多いのではないかと思います。本研究会も、新型コロナウイルス感染症下で行える活動を模索しながら、研究を進めています。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症拡大防止のため、例年の活動を縮小せざるを得ませんでした。そして、調査結果が各都立高等学校の今後の奉仕・ボランティア体験活動の参考になればという願いもあり、各校の奉仕・ボランティア体験活動の実施状況についての調査を行いました。全都立高等学校のホームページを調べ、令和 2 年 9 月 3 日段階で奉仕・ボランティア体験活動を行っていると思われる部・同好会(例：ボランティア部、福祉部、JRC 部)を設置している学校 43 校、生徒向け調査に協力すると回答のあった 11 校の生徒に調査をお願いしました。調査結果については、本冊子の原稿を御覧いただければと存じます。調査に御協力いただきました各学校と生徒の方々には、厚く御礼申し上げます。

現在も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は止まらず、制限がある中での教育活動が続けられています。本研究会では、ウイズコロナ、ポストコロナでの奉仕・ボランティア体験活動の情報も収集し、検討し提案していくことを考えています。さらに、令和 4 年度に実施される第 46 回全国高等学校総合文化祭ボランティア部門の企画・運営の補助にも関わり、大会を盛り上げていこうとしています。

今後とも、本研究会への御理解と御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和 3 年 3 月吉日

令和2年度の研究活動

研究団体名	東京都奉仕・ボランティア教育研究会
-------	-------------------

研究テーマ	新学習指導要領に対応した、探究型、課題解決学習型の奉仕・ボランティア教育の在り方について探る
研究の主な内容	1 都立高等学校におけるボランティア部等の活動に関する状況調査 2 令和4年度開催 第46回全国高等学校総合文化祭東京大会への関与についての検討

回	実施日	研究会時間	内 容	会 場
1	令和2年8月3日(月)	18時00分から 20時00分まで	感染症拡大防止に伴う今年度の活動方針・体制等についての検討 《検討結果》 令和2年度は、集合型の研究活動は自粛し、都立高等学校等におけるボランティア活動の現状についてアンケート調査を実施することに決定	武蔵野栄養専門学校
2	令和2年 9月18日(金)から 12月18日(金)まで		都立高等学校でのボランティア活動等の状況調査内容について検討	メールでの検討
3	令和2年 12月22日(火)から 令和3年 1月15日(金)まで		都立高等学校でのボランティア活動等の状況調査の実施	メールでの実施
4	令和3年 2月8日(月)から 3月5日(金)まで		都立高等学校でのボランティア活動に関する生徒向けアンケートの実施	メールでの実施
5	令和3年 3月8日(月)から 3月26日(金)まで		調査結果の分析・まとめ、調査報告書の作成	メールでの検討

都立高等学校におけるボランティア部等の活動に関する調査報告

令和2年度、東京都奉仕・ボランティア教育研究会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年の活動を縮小し、ボランティア活動に関する部活動等を行っている都立高等学校を対象にアンケート調査を実施して、高校生のボランティア活動の現状把握に取り組んだ。

アンケート調査は、2段階の設定で行った。第1段として、ボランティア活動に関する部活動等を設置している都立高等学校（43校）を対象とし、活動の内容や生徒の成長などを尋ねた。第2段として、生徒向けのアンケートに協力すると回答のあった学校に改めて生徒向けアンケートを送付し、入部のきっかけやこれから取り組みたい活動などを尋ねた。なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、いずれの学校も活動が制約されていることから、主に令和元年度以前の状況について尋ねている。

【都立高等学校（43校）対象アンケート結果】

- 1 実施期間： 令和2年12月22日（火）から令和3年1月15日（金）まで
- 2 実施対象： 全都立高等学校のホームページを調べ、令和2年9月3日段階でボランティア活動を行っていると思われる部・同好会等（例：ボランティア部、福祉部、JRC部）を設置している学校（43校）
- 3 回答校数： 17校（回収率：39.5%）

全日制（学年制）高等学校	13校
全日制（単位制）高等学校	2校
定時制（単位制・昼夜間）高等学校	1校
定時制（学年制・夜間）高等学校	1校
- 4 回答者： 部活動顧問 15校（88.2%）
副校長 2校（11.8%）
- 5 平均部員数： ボランティア体験学習を全校で取り組んでいると回答した1校を除き、16校の平均

10.1人

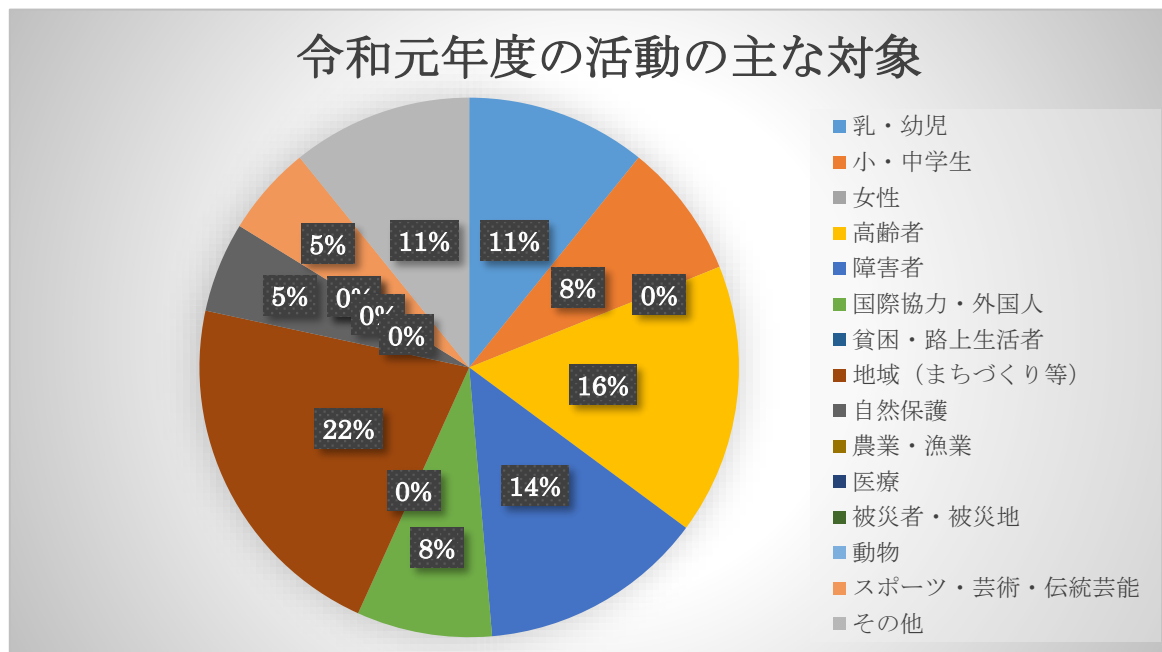
この16校の平均在籍生徒数が、687.3人であることから、部員の全生徒に占める割合は、平均1.5%であった。

6 回答の概要

※ 「主なものを3つ選んで」として1位～3位までに選ばれた合計回数により作成

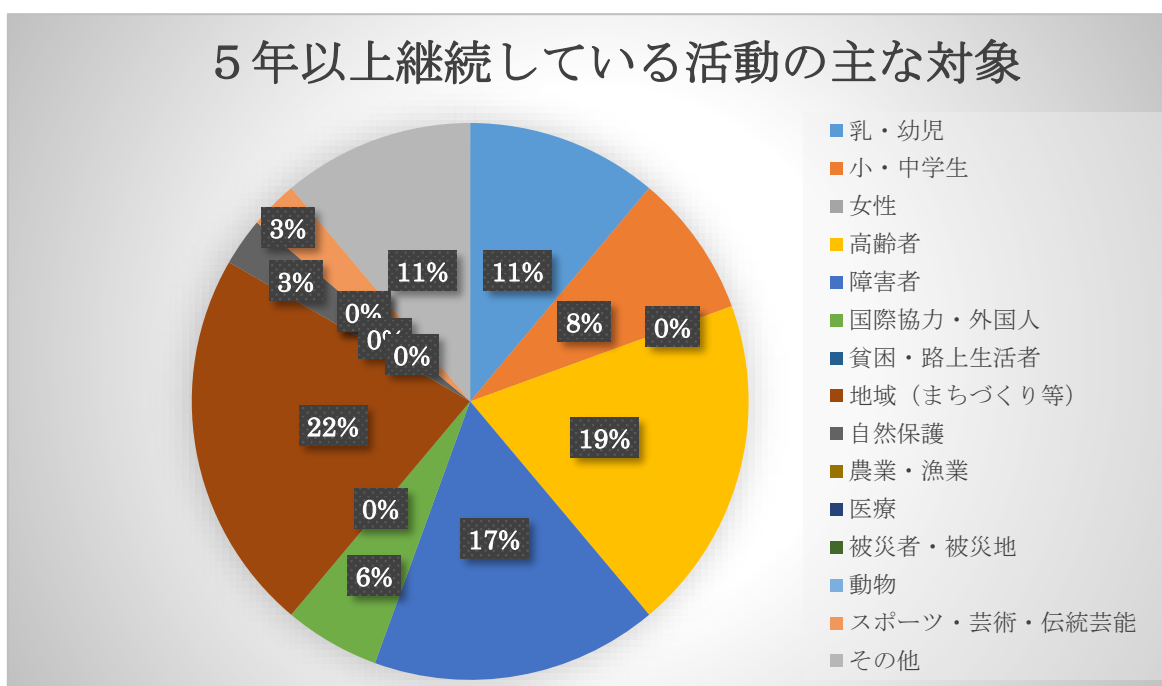
※ 一部、「0%」のラベルは重なった状態で表示

質問1 令和元年度に取り組んだ活動は誰（何）に関連したものであったかをお教えてください。



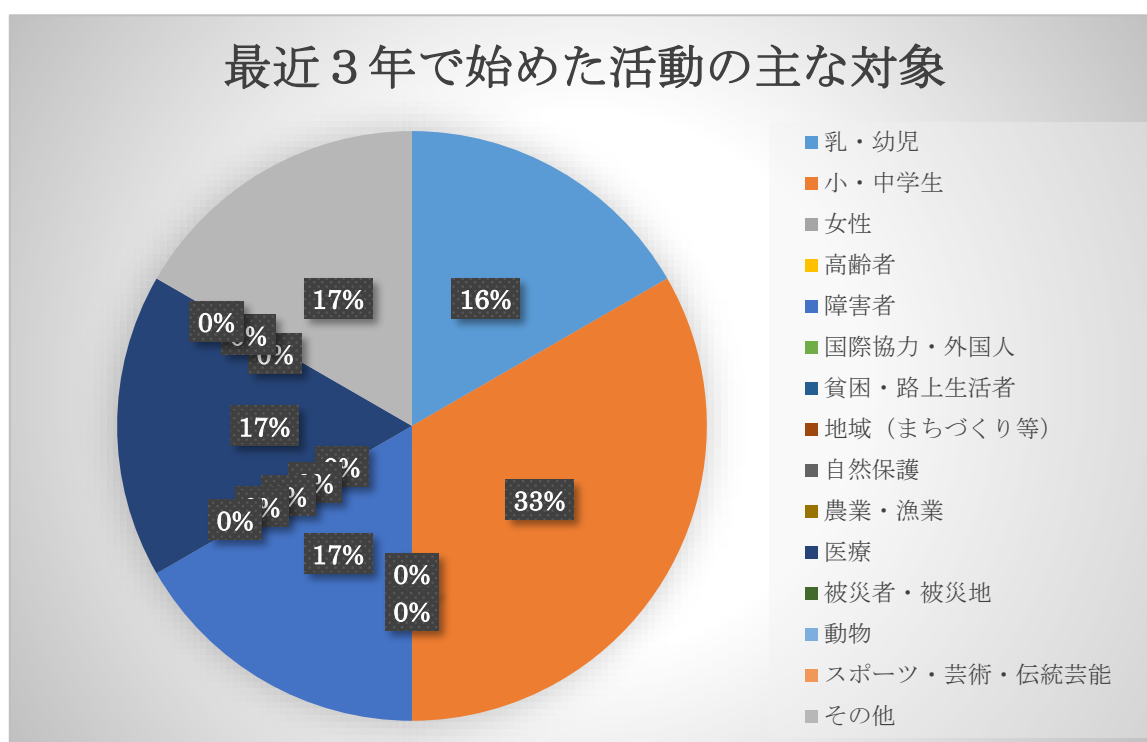
最も多かったのは「地域（街づくり等）」を対象としたものであり、これには地域清掃も含まれる。

質問2 過去5年以上（新しい部等では、誕生してから）継続して行っている活動をお教えてください



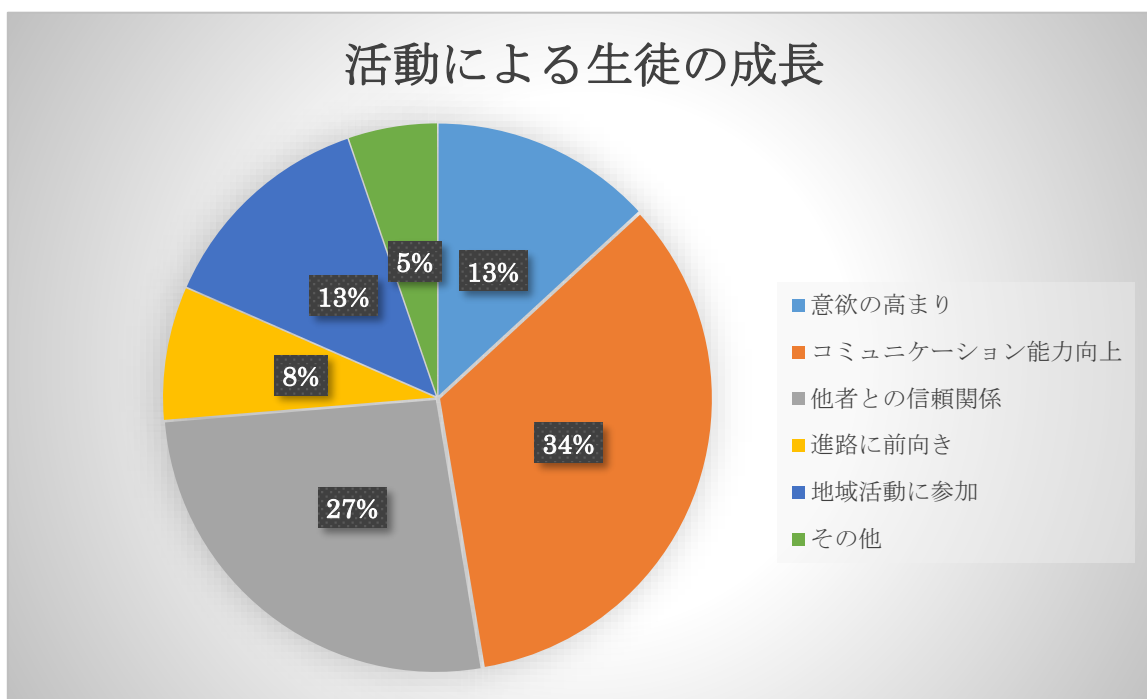
質問1と比較すると、令和元年度は、「障害者」を対象とした活動が減り、「高齢者」や「スポーツ・芸術・伝統芸能」を対象とした活動が増えている。

質問3 平成30年度以降、新たに取り組み始めた活動をお教えてください。



最近始めた活動としては、小・中学生を対象とした活動が多かった。

質問4 部活動を通じて見られる部員等である生徒の成長は、どのようなものでしょうか。



指導者から見て生徒の成長として感じられるのは、コミュニケーション能力の向上や他者との信頼関係といった人間関係の構築に関わるものであった。

【生徒向けアンケート結果】

- 1 実施期間： 令和3年2月8日（月）から令和3年3月5日（金）まで
- 2 実施対象： 生徒向けアンケートに協力可能と回答があった都立高等学校 11 校を対象に実施
- 3 回答校数： 4校（回収率：36.4%、対43校：9.3%）

全日制（学年制）高等学校	3校
全日制（単位制）高等学校	1校
- 4 回答者： 3校は第2学年の生徒各1人が回答
1校は第1学年生徒1人と、第2学年生徒1人が回答
- 5 質問及び回答

《質問1》 ボランティア活動を始めた、あるいはボランティアの部活動に参加したきっかけは何ですか。
また、それはいつのことですか。

《回答1》 ～活動を始めたきっかけの時期を基に整理

【きっかけは小学生段階】

- ・誰かのために行動し、たくさんのことに触れて経験したいと思った。
- ・少しでも困っている人を助けられると思った。
- ・ボランティアを通して、人生経験を積みたかった。

【きっかけは中学生段階】

- ・人の役に立ちたいと思っていた。
- ・学校で募集されていた活動が楽しそうだった、人の役に立ちたかった。
- ・PTA 主催のクッキー教室に教える側のボランティアに参加して、小学生と一緒に作ったのが楽しかった。

【きっかけは高校入学時】

- ・子どもと関わる機会が増えると思い、入部した。
- ・親に勧められて始めた。
- ・新入生歓迎会で上級生のバルーンアートが印象的だった。

《考察1》

小・中学生段階からボランティア活動に関心があった生徒では、人の役に立ちたいという思いを抱いている。しかし、高校入学以降であっても人の勧めやきっかけがあれば、ボランティア活動に関われる可能性があると言える。

《質問2》 ボランティア活動を始めて、気付いたことや自分が成長したなと感じるところは何か。

《回答2》 ～生徒の意見を大別して整理

【行動に関すること】

- ・ 自分から行動できるようになった。
- ・ 相手が必要としていることを考えることの難しさが分かった。
- ・ 周りの様子を見ながら必要な行動できるようになった。
- ・ 必要な情報なのかを整理して考えられるようになった。

【コミュニケーションに関すること】

- ・ コミュニケーションへの抵抗感が減った。コミュニケーション能力が高まった。
- ・ 言葉で理解してもらうことの難しさが分かった。
- ・ 言葉だけでなく、行動することで、より伝わりやすくなる。

【ものの見方・考え方に関すること】

- ・ いろいろなものの見方があることに気づいた。
- ・ ボランティア活動は「支援する」ことという考え方から、「自分がやりたい活動をした結果、誰かのためになっていて、それが自分の成長にもつながっている」という考え方に変わった。

【ボランティア活動等に関すること】

- ・ ボランティア活動が楽しいと思えた。
- ・ 人の役に立つことは、改めてとても良いことだと思えた。

《考察2》

生徒は、自ら行動することの大切さに気付いているが、様々なものの見方があることに気付いている。また、指導者が感じているように、コミュニケーション能力の向上を感じているが、その難しさも感じている。

《質問3》 あなたの学校の活動で、他校の生徒に紹介したい活動を教えてください。

《回答3》

- ・ 町がきれいになり、ありがとうと言ってもらえるので、地域清掃活動
- ・ 幅広い年齢の方と関わりをもてるから、小学校や老人ホームでの交流
- ・ 子供などの反応を引き出しやすいので、バルーンアートづくり

《考察3》

生徒は、オーソドックスな活動に有効性を感じている。

《質問4》 今後取り組んでみたい活動を教えてください。

《回答4》

- ・ 外国人に関わるボランティアや国際的な交流
- ・ 地域清掃を含めた地域の人たちとの交流
- ・ 保育園や小学校、高齢者・障害者施設への訪問と交流
- ・ イベントのサポート
- ・ 募金活動

《考察4》

生徒は、主としてボランティア活動を通じて他者との交流に取り組みたいと考えている。

参考：都立特別支援学校生徒1人に聞き取り

《質問1》 ボランティア活動を始めたきっかけは何ですか。

《回答1》 中学生の時、学習ボランティアの学生さんに勉強を見てもらっているときに、いろいろなボランティア活動があることを知った。

《質問2》 ボランティア活動を始めて、気付いたことや自分が成長したなと感じるところは何ですか。

《回答2》 気付いたのは、感謝されるのはうれしいということ。成長したと感じるのは、コミュニケーション能力が上がったことと、TPOをわきまえるようになったこと。

《質問3》 他校の生徒に紹介したい活動を教えてください。

《回答3》 やりたいことをやればよいと思う。人づきあいが苦手でも機械操作が好きなら、イベントの音響の手伝いができる。

《質問4》 今後取り組んでみたい活動を教えてください。

《回答4》 目の前にやれることがあればやっていきたい。これまで、自分では行けなかった被災地に、社会人になったら行って活動したい。

【新たな日常における今後の活動に向けて】

現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な部活動が制約されており、特に、直接人と交流するようなボランティア体験学習を設定できない状況が続いている。しかし、間接的であっても人との出会いによって得られるものは大きい。このことから、今後、「新しい日常」の中で、遠隔なども含めた活動について情報を収集し、情報提供していくことなどについても取り組んでいく必要がある。

その意味で、令和4年夏に東京で開催される第46回全国高等学校総合文化祭東京大会（とうきょう総文2022）の協賛部門「ボランティア部門」において、全国の高校生が互いに取組を紹介し合えることができるのは、意義深い。本研究会としても、何らかの形で関与し、東京においてボランティア体験学習が多様に、また、日常的に展開されるようになることに寄与したいと考える。

Q3 令和元年度に取り組んだ活動は誰（何）に関連したものであったかをお教えください。

（該当する活動があれば、□をチェックしてください。複数回答可）

- 1 ☐ 乳・幼児
2 ☐ 小・中学生
3 ☐ 女性
4 ☐ 高齢者
5 ☐ 障害者
6 ☐ 国際協力・外国人
7 ☐ 貧困・路上生活者
8 ☐ 地域（まちづくり等）
9 ☐ 自然保護
10 ☐ 農業・漁業
11 ☐ 医療
12 ☐ 被災者・被災地
13 ☐ 動物
14 ☐ スポーツ・芸術・伝統芸能
15 ☐ その他 具体的にどのような活動でしょうか。

上記の 1 ～15 の活動の中で主なものを 3 つ選んで、番号でお教えください。

1 番目

2 番目

3 番目

都立高等学校等におけるボランティア部等の活動に関するアンケート

アンケートへの協力をお願い

日頃より、東京都奉仕・ボランティア教育研究会の活動に御理解と御支援を賜り、心よ御礼申し上げます。
さて、当会では、都立高等学校等におけるボランティア体験学習の促進のため、以下のねらいでアンケートを計画いたしました。何卒御協力の程、お願いいたします。

アンケートのねらい

本アンケートにより、都立高等学校等において、生徒がボランティア活動などを行っている部や委員会等の活動内容や成果等を把握し、調査結果などを各校に提供することにより、今後の各校におけるボランティア体験学習の促進や、学校を超えた交流に役立てたいと考えております。

以下の各項目にお答えください。

まず、御回答いただいている方についてお伺いします。

学校名

職名

当該部活動等の顧問

※回答はリストから選んでください。

※回答はリストから選んでください。

Q1 ボランティア活動を行っている部活動等の名称をお教えください。

Q2 所属する生徒数をお教えください（令和 2 年 7 月時点）。

人

全校（課程）生徒数をお教えください。

人

Q4 次の1～15の活動の中で、過去5年以上（新しい部等では、誕生してから）継続して
行っているものをお教えください。

（該当する活動があれば、□をチェックしてください。複数回答可）

- 1 ☐ 乳・幼児
- 2 ☐ 小・中学生
- 3 ☐ 女性
- 4 ☐ 高齢者
- 5 ☐ 障害者
- 6 ☐ 国際協力・外国人
- 7 ☐ 貧困・路上生活者
- 8 ☐ 地域（まちづくり等）
- 9 ☐ 自然保護
- 10 ☐ 農業・漁業
- 11 ☐ 医療
- 12 ☐ 被災者・被災地
- 13 ☐ 動物
- 14 ☐ スポーツ・芸術・伝統芸能
- 15 ☐ Q3で答えた「その他」の活動

上記の1～15の活動の中で主なものを3つ選んで、番号でお教えください。

1 番目	2 番目	3 番目

Q5 同じく次の1～15の活動の中で、平成30年度以降、新たに取り組み始めたものをお教え
ください。

（該当する活動があれば、□をチェックしてください。複数回答可）

- 1 ☐ 乳・幼児
- 2 ☐ 小・中学生
- 3 ☐ 女性
- 4 ☐ 高齢者
- 5 ☐ 障害者
- 6 ☐ 国際協力・外国人
- 7 ☐ 貧困・路上生活者
- 8 ☐ 地域（まちづくり等）
- 9 ☐ 自然保護
- 10 ☐ 農業・漁業
- 11 ☐ 医療
- 12 ☐ 被災者・被災地
- 13 ☐ 動物
- 14 ☐ スポーツ・芸術・伝統芸能
- 15 ☐ Q3で答えた「その他」の活動

上記の1～15の活動の中で主なものを3つ選んで、番号でお教えください。

1 番目	2 番目	3 番目

Q 6 当該の部等の活動を主に計画しているのは誰ですか。以下の選択肢の中から一つ選び、番号でお答えください。

1	生徒	
2	教員	回答はここに →
3	部活動指導員	
4	部活動指導員以外の外部関係者	

↓

具体的にどのような人（団体）でしょうか。

Q 7 部活動を通じて見られる部員等である生徒の成長は、どのようなものでしょうか。

（該当すると考えられるものがあれば、☐をチェックしてください。複数回答可）

- 1 ☐ 授業や部活動、学校行事への意欲が高まった。
- 2 ☐ コミュニケーション能力が向上した。
- 3 ☐ 他者との信頼関係が深まった。
- 4 ☐ 進路について前向きに考えるようになった。
- 5 ☐ 地域（自身の居住地又は学校）の活動に自ら参加するようになった。
- 6 ☐ その他 具体的にどのような内容でしょうか。

Q 8 アンケートへの御回答をありがとうございました。できましたら後日、生徒の方、お一人を対象に、質問紙により、ボランティア活動の意義や自らの成長について伺いたいと考えておりますが、御協力いただけますでしょうか。

↓（どちらかの☐をチェックしてください。）

- 1 ☐ 協力できる。
- 2 ☐ 協力できない。

御協力ありがとうございました。

都立高等学校等におけるボランティア部等の活動に関する生徒向けアンケート

このアンケートに御協力くださっている高校生の皆さんへ

このアンケートは、より多くの都立高等学校、都立中等教育学校（以下、「都立高校」という。）で、ボランティア体験学習を進めてもらいたいと考えている「東京都奉仕・ボランティア教育研究会」が実施しています。

このアンケートを通じ、皆さんが、どのようにしてボランティア活動に関わるようになったのか、ボランティア活動からどのようなことを手に入れているのかを知りたいと思っています。そして、皆さんの意見を参考にして、さらに多くの皆さんの仲間を作っていきたいと考えています。

皆さんの生の声を聞かせてください。ぜひ、よろしくお願いします。

以下の質問の答えを、各セル（□）の中に打ち込んでください。もし、セルに入りきらないときには、字数に合わせて「行の高さ」を変えてください。

1 学校名を教えてください。

都立

2 あなたの学年を教えてください。

第 学年

3 あなたがボランティア活動を始めた、あるいは、ボランティア関連の部活動に参加したきっかけは何ですか。また、それはいつのことですか。

4 あなたがボランティア活動を始めて、気付いたことや自分が成長したなど感じるころは何ですか。また、それはどんなときに感じますか。

5 あなたの学校で取り組んでいて、他校の生徒に紹介したいボランティア活動を教えてください。また、その活動がなぜいい活動なのかを教えてください。

6 あなたの学校で、今後、取り組んでみたいボランティア活動は何ですか。

※ 御協力、ありがとうございます。このデータを担当の先生に渡してください。

13

令和2年度 東京都奉仕・ボランティア教育研究会会員名簿

役職等	氏 名	所 属	備 考
会 長	吉 田 寿 美	東京都立豊多摩高等学校	校 長
副会長	伏 見 明	東京都立永福学園	統括校長
相談役	柳 久美子	東京都教育相談センター	
相談役	久 保 淳	武蔵野栄養専門学校	校 長
	富 川 麗 子	東京都立赤羽北桜高校（開設準備室）	校 長
	藤 田 豊	東京都立新宿山吹高等学校	副校長
	神 谷 画 歩	東京都立八王子桑志高等学校	副校長
	正 木 成 昭	東京都立赤羽北桜高校（開設準備室）	
	武 蔵 史 朗	東京都立赤羽北桜高校（開設準備室）	
	竹 田 克 己	東京都立東久留米総合高等学校	
	桑 原 哲 史	東京都立松が谷高等学校	
	塚 田 行 江	東京都立桐ヶ丘高等学校	
	櫻 井 滉 輔	東京都立白鷗高等学校	
	佐々木 彬 人	東京都教職員研修センター	
	山 田 一 隆	岡山大学	准教授
	大 束 貢 生	佛教大学	准教授
	有 馬 正 史	NPO法人 さわやか青少年センター	理事長
	堀 部 伸 二	NPO法人 16歳の仕事塾	理事長
	石 川 克 己	葛飾区社会福祉協議会	係 長
	谷 口 陽 香	東京ボランティア・市民活動センター	
	榎 本 朝 美	東京ボランティア・市民活動センター	
事務局長	石 井 久美子	東京都立向丘高等学校	副校長
幹事・監査	鯉 渕 健 太	東京都立神代高等学校	
会 計	板 垣 慶 樹	東京都立王子総合高等学校	

東京都奉仕・ボランティア教育研究会 令和2年度 研究紀要

令和3年3月発行

編集・発行 東京都奉仕・ボランティア教育研究会
事 務 局 東京都立向丘高等学校内
電話番号 03-3811-2022（代）

印刷・製本